

文学博士金倉四照君、文学博士山田龍城君、多田等

観君および羽田野伯猷君の「西蔵撰述仏典目録」に

対する授賞審査要旨

東北大学は曾つて多田等観君が将来せるデルゲ版チベット大蔵経並びに他の蔵外仏典を、大正十二年に、図書館所蔵となし、その全目録の作製を企てた。大蔵経については、昭和九年に、西蔵大蔵経総目録として出版したが、デルゲ版大蔵経目録としては、学界最初のものである。全体は二十四類に分れ、凡てで三百七十七帙あつて、その中に大小合せて四千五百六十九部を含んでいる。この出版以来、蔵外仏典の目録作製に進み、遂に之を完成して昨二十八年に西蔵撰述仏典目録として出版した。

大蔵経は主としてインドの典籍を蔵訳したものから成り、チベットにおいて著わされたものを之に収めることは甚だ稀である。従つて、チベットで著わされた典籍は通常蔵外と称せられるも、大蔵経の如くに、一纏めにはなつて居ない。有数なる学者の著作は、その学者所住の寺廟、又はその系統内において、それぞれその学者等の全集として保存せられて居るのみで、一般に流布して居るのではないから、それ等を集取するには多大の労力を要するが、多田君によつて驚くべき多数のものが得られたのである。本目録においてはこれ等を配列するに、歴史家として後世に影響を遺した十四世紀の Bu-ston 及びその弟子の全集、ラマ教中の新教黄帽派の開祖たる十四五世紀の Tsou-kha-pa

の全集を初めとし、後者の弟子各々及びその系統の学者 Dalai-lama 教代の全集の順序となし、総じて十七種とせられ、その他に種々なる七種を入れて、凡てで二百三十帙となり、その中に二千八十三部を含んで居る。然し、この多数の部の中には独立的論稿の多くが含まれて居るがために、それ等を各々一部として数えるときは、恐らく四千部を超ゆるであろうという。かかる龐大なるコレクションはチベット本国にすら一箇所存するのではなく、わが国においても他のコレクションも存するといはれるも、分量において、これに及ばない。他の国々においてもあるいは存するであろうが、目録が公表せられて居ないので明かにせられない。

チベットは近世期に入るまでは、他国との交渉殆どなく、中国との関係においても政治的方面に関するのみであった。従つて、チベット国の歴史としては、国内における仏教のそれに外ならぬこと、恰かもセイロンの古い時代の如くである。故にかかる歴史を動かしたのは仏教学者であつたし、政治上の主権者も法王であつた。この点から見ると、これ等の仏教学者の著作はこの国の歴史を知る殆ど唯一の資料であるといえよう。しかもかかる仏教学者の属する仏教は所謂ラマ教である。初めインド後期の仏教がチベットに伝わり、十世紀頃からラマ教が成立発達し、爾来国内を風靡する勢を得るに至つたのみならず、中亞、蒙古、満洲に伝播し、中国にも入つて、大なる勢力を得、以て東亞における重要な一仏教となつた。従来チベットは秘密国とすら考えられて居る如くに、国内の事情、仏教の状態、殊にラマ教教理の知られ居ること甚だ少く、この点は学界一般の欠陥ともいふべきことに属するが、この如き状態にあるのは、一にはその資料が入手せられず、利用せられなかつたことに由るのである。近來はチベット国内に旅行し又は多少の探検に従事する人々も絶無というのではないが、然し旅行者の見聞は限られた範圍のものであり、又短日月

の間には大きな資料の蒐集は不可能な状態にある。従つて、本目録の示すが如き大資料の蒐集はチベット研究を促進せしむるに足るものであつて、これを有するは甚だ恵まれて居ることである。以上の外にも、種々なる方面において蔵外としての西蔵撰述仏典の資料的価値は明かに認められ得るから、これを所蔵となすのは独り東北大学の誇であるのみならず、我国の学界一般の光栄である。

本目録の様式は、何れの部においても、(1)において、チベット文字によつてその書の標題を掲げ、(2)において、これをローマ字に写し、(3)において、それを凡て邦訳して居る。この三項によつて、目録としては一応は具わるといえるが、然しチベット書の標題は一見したのみでは、慣れないものには、理解に容易でないが如き点もあり、他国の学者には又不便な点もあるがために、更に(4)において、英文を以てその内容を簡単に述べ、屢々大蔵經との関係、その他必要な事項に言及した。これ本目録の特色の一つであつて、編輯者が一一の書を精査し、その中に何が論述せられて居るかを明かにするを得て、述べたものであるから、専門学者にも、また一般学者にも、内容が一目瞭然たらしめられるものである。紙幅の都合上簡単とならざるを得なかつたとはいえ、これを附したことは極めて親切であり、又学的にも多大の価値あるものである。この如き様式を二千八十三部に施してなした後に、更に、classified index of contents が添えられている。これは全体を密教仏教と顕教仏教との二部に分ち、前者を更に六項とし、その中に細分を設けて西蔵撰述仏典の密教的の部を網羅し、組織的に分類して、主としてチベット仏教の本質がこれ等によつて明かにせられることを示し、従来殆んど明かにせられなかつたラマ教教理を闡明するにその適切な方向を示すものといふべく、後者は之を十項に分つが、一般仏教と共通しつつも、そこにチベットの取扱い及び解釈の存すること

を示すに足るものがあつて、研究者に至便である。更に又以上の二部の分類に入らないものとして仏教史等に關する典籍が附録的に扱われている。以上の如く、多数の典籍について整然たる分類を得たことは編輯者の努力の甚大なるを知らしめるに足るものであつて、これ最初の業績といふべく、学的に効果あるのみならず、この蔵外仏典を見得ざる専門学者にも、その大体を想見し得るよすがとなる点に多大の意義あるものといふべきである。勿論、これ等の中には研究の成果といふべきものは述べられて居ないが、これは目録としてこれを作製したがためであつて、恕すべきものであらう。